

**在スロバキア日本国大使館**  
**政治・経済月報（2015年3月）**

目 次

**内 政**

- ◆キスカ大統領による与党Smerの医療政策批判 . . . . . 2
- ◆大統領の批判に対するフィツォ首相の反応 . . . . . 2

**外 政**

- ◆V4、北欧及びバルト諸国外相会合 . . . . . 2
- ◆ブリアン外務・欧州問題副大臣の訪日 . . . . . 2
- ◆V4及びドイツ外相会合 . . . . . 3
- ◆エルドアン・トルコ大統領のスロバキア訪問 . . . . . 3

**社 会**

- ◆スロバキア人の英語力 . . . . . 3

**経 済**

- ◆ウクライナ向けガスの増量 . . . . . 4
- ◆イーストリングに対するブルガリアの関心 . . . . . 4
- ◆スロバキア中央銀行中期予測（第1四半期） . . . . . 4
- ◆スロバキア中央銀行月報（3月） . . . . . 5

別添：主要経済指標

※本月報は公開情報を在スロバキア日本国大使館がとりまとめたものです。

## 内 政

### ◆キスカ大統領による与党Smerの医療政策批判（3月17日付スメ紙）

キスカ大統領はチスラーク保健相との会談終了後、医療分野改革に対する与党の無気力を批判した。同大統領は、チスラーク保健相が、前保健相の辞任のきっかけとなった不正入札疑惑を偽りのスキャンダルと指摘し、入札が通常のものであったと主張したことを問題視した。また、医療保険制度の不透明さについても疑問を呈した。保健省の報道官は、大統領の発言に異を唱え、医療保険は明確なルールを有していると主張した。

### ◆大統領の批判に対するフィツォ首相の反応（3月23日付プラウダ紙）

キスカ大統領に近い人々は、大統領が政府及びSmerと戦うように仕向けている。フィツォ首相は、キスカ大統領による批判をそのように捉えている。同首相は、大統領には実務分野に関する責任がないことから、一般的な意見を安易に述べることができると指摘する一方、首相及び政府に大統領と対立する意志はないことを強調した。政治学者のホルスキー氏も、「双方とも、対立がスロバキアの利益に反することを理解している。政治的価値志向や経験が異なっているにもかかわらず、具体的協力を拒否する理由とはならないであろう」と指摘した。

## 外 政

### ◆V4、北欧及びバルト諸国外相会合（3月12～13日）

12～13日、スロバキアにおいて中欧、北欧及びバルトの12カ国外相会合が開催され、ライチャーク副首相兼外務・欧州問題相は、「スロバキアのV4議長国期間中の最大の会合であり、3つの重要な地域グループの外相を招いた」と述べた。会合のテーマはエネルギー安全保障、EUの近隣政策、特に東方パートナーシップ諸国との関係であった。また、ウクライナ情勢に関する意見交換では、各国外相は、ミンスク合意の徹底的な履行が優先されることを訴えた。会合では、欧州へのテロリズムの浸食の阻止及びISIL等のテロ集団への対策に関する協議も行われた。

### ◆ブリアン外務・欧州問題副大臣の訪日（3月13～15日）

訪日したブリアン・スロバキア外務・欧州問題副大臣は、城内外務副大臣と会談を行った。両副大臣は緊密な政治対話の継続に関して合意した。また、中小企業の活性化への支援等、経済協力の深化への関心を表明した。ブリアン副大臣は、竹本・日スロバキア友好議連会長及びその他の同議連加盟議員とも会合を行った。会合では二国間関係の発展に向けた議会レベルの協力が強調され、議会間交流の継続の有効性に関して合意した。また、両国における財政・経済

の問題や地域安全保障に関する議論も行われた。仙台での第3回国連防災会議において、ブリアン副大臣は、「ブラチスラバがドナウ川の洪水に耐えた時、防災分野への投資価値が明確となった。スロバキアは自国の経験を共有していく用意がある」と述べた。

#### ◆V4及びドイツ外相会合（3月23日）

ライチャーク外相は、「V4+独」の対話が、中欧から見た国際政治情勢に関する意見交換の基盤となっていることを強調した。会合では、EU近隣政策に関連して、ウクライナ情勢や東方パートナーシップ諸国の動向について議論した。また、エネルギー安全保障や気候変動問題もテーマとして扱われた。シュタインマイヤー独外相とライチャーク外相の二国間会談も行われ、ライチャーク外相は、スロバキアとドイツのパートナーシップの重要性を強調した。ドイツはスロバキアにとって最大の貿易相手国であり、3番目の投資額を誇り、約500の独企業が9万人の雇用を創出している。

#### ◆エルドアン・トルコ大統領のスロバキア訪問（3月31日）

キスカ大統領はエルドアン大統領との会談終了後、「トルコは政治経済及び安全保障上の重要なパートナーであるだけでなく、NATO加盟国であり、更にはEU加盟を目指す国でもある」と述べ、EU・トルコ関係が相互に重要であることを強調した。また、スロバキア・トルコの貿易額が10年で6倍に拡大し、2013年には14億ユーロに達したことを評価した。エルドアン大統領は経済分野での関係深化を評価し、「査証免除となって以降、13万7000人のスロバキア人がトルコを訪れた。EUがトルコに対する査証を免除するならば、多くのトルコ人がスロバキアを訪問することになる」と訴えた。

## 社会

#### ◆スロバキア人の英語力（3月31日付経済新聞）

スロバキア人の英語によるコミュニケーション能力が、欧州各国に比べて弱いことが、ブリティッシュ・カウンシル・スロバキアが小中学校の英語教員428名を対象に行った調査で確認された。同調査によると、スロバキア人の63%が英語を重要と考えているが、英語による情報の理解については、EU平均の25%に対し、スロバキアは14%に過ぎなかった。また、11%の英語教員が英語表現に自信を持っていないことも明らかになった。教育省は、欧州基金からの助成金1130万ユーロをかけて、デジタル教材を用いた英語のみの授業を導入する等、新たなプロジェクトを開始している。

## 経 済

### ◆ウクライナ向けガスの増量（3月3日付プラウダ紙）

Eurostream社は、3月1日からウクライナ向けガス輸送量を最大限に引き上げた。これまでの供給量は1日3200万立方メートルであったが、今後は4000万立方メートルを受け取る事となる。Eurostreamによると、ウクライナは、ポーランド及びハンガリーからのガス供給も併せることで、必要なガスの確保が可能となる。スロバキア外交政策協会のドゥレバ研究所長は、ロシア産ガスのスロバキアへの供給が契約した量に満たない現状を考慮しても、スロバキアからウクライナへの輸送量増量については、特に問題はないと考えている。

### ◆イーストリングに対するブルガリアの関心（3月6日付プラウダ紙）

5日にスロバキアを訪問したミトフ・ブルガリア外相は、ロシア以外の地域からEUへのガス輸送を可能にするイーストリング・プロジェクトへの支持を表明した。ブルガリアはロシアへのエネルギー依存度が最も高い国の1つであり、ミトフ外相は、供給元の多様化を歓迎すると共に、新規パイプライン建設への出資についても問題はないとする考えを示した。Eurostreamのニコヴィチ会長は、「イーストリングの実現はすべての関係国にとって新たなガス供給元の確保を意味し、それはガス価格の値下げにもつながる」と主張した。

### ◆スロバキア中央銀行中期予測（第1四半期）

#### 1. GDP

2014年第4四半期のユーロ圏経済は前期比0.3%と若干加速した。特に個人消費がユーロ圏の経済成長を後押しした。第4四半期のスロバキア経済は内需と外需に支えられ、前期比0.6%の成長となった。バランスのとれた成長は2015年も持続し、経済成長は3.2%となる見込み。2016年には3.8%、2017年には3.5%になると予想される。エネルギー及び食料品等の価格下落による所得効果が個人消費の伸びを後押しすると考えられる。第4四半期の名目公共最終消費は、売りに関する期待が政府消費の増加を後押しし、第4四半期の予測よりも大きな伸びを示した。2014年の実質公共投資は2006年以降で最も大きな伸びを示したが、2015年には公共投資が鈍化すると予測される。2014年の民間投資の大幅な増加は2015年も持続する見込み。

#### 2. 労働市場及び賃金

2014年の雇用率の比較的力強い上昇は、2015年にも同水準で持続すると考えられる。雇用率上昇に伴って、失業率の低下も継続し、2015年に

は12%、2016年には約11%に下がり、2017年の終わりには約10%に下がる見込み。2014年の名目賃金は、全体で4.1%と大幅に上昇した。2015年には公的部門の賃金のみが3.9%と比較的大きな伸びを維持し、民間部門は2.3%に鈍化する見込み。

### 3. 物価

2015年初めから続く物価上昇率の異例の低さと本年中に想定されるエネルギー価格の下落は、2015年の平均インフレ率を-0.3%に押し下げると見られる。ユーロ圏はインフレに作用すると考えられるが、この効果は2015年におけるエネルギー及び食料品価格の下落を補完するには十分ではない。2016年以降、インフレ率はプラスに戻り、ゆっくりと加速していくと考えられる。2015年第1四半期予測によると、2016年には1.7%、2017年は2.4%になる見込み。

### 4. 貿易

ECBが3月に開始した拡大資産購入プログラム（EAPP）は、ユーロ圏におけるスロバキアの貿易相手国の経済活動をより力強く後押しし、当該国からの需要に好影響をもたらすと考えられる。他方、中国やロシアの経済活動の鈍化は、スロバキアの外需の伸びを停滞させると見られる。スロバキアの輸出は全体で、2015年に3.7%増加し、2016年には5.3%、2017年には5.5%と更に加速する見込み。

## ◆スロバキア中央銀行月報（3月）

### 1. GDP

2014年第4四半期の動きは、ユーロ圏経済が底打ちした可能性が高いことを示した。スロバキア経済は、第4四半期における経済活動の急速な伸びの後、成長路線を維持している。主に鉱工業部門と物流部門における売り上げの好調な動きにより、1月の全体の売り上げは前期比1.7%増となった。1月の鉱工業生産は前期比0.8%増となり、金属、電機生産及びエネルギーが伸びに最も貢献した。個人消費は、特に労働市場の改善、可処分所得の増加やエネルギー及び食料品価格の下落により増加が見込まれる。

### 2. 雇用率及び賃金

1月の前年同期比での雇用率は、12月の2%から0.8%に下落した。商業、サービス、IT通信及びホテル・外食部門で大きな鈍化が見られ、鉱工業部門のみが明らかな上昇基調を維持した。失業率は2月に再び低下傾向を示し

た。季節調整前の登録ベースでの平均失業率は12.32%であった。1月の平均名目賃金の伸びは、前年同期比で第4四半期の平均3.2%から、わずか1.5%の伸びに落ち込んだ。1月の平均名目賃金は816ユーロであった。

### 3. 物価

2月の消費者物価指数は前年同期比で0.6%の下落を記録し、スロバキアではこれまでで最大の下げ幅であった。この前年同期比での物価下落加速の要因は、食料品及びエネルギー価格の動きであった。現在（注：2月3日）、54ドル台になっている原油価格は引き続き2015年の物価水準低下のリスク要因となっている。短期的に見ると物価は4月には前年同期比で-0.5%に達すると予測される。

### 4. 貿易

1月の輸出は実質で前期比3%増となり、金属加工部門の輸出が最大の伸びを示した。今後、自動車及び電機産業のおかげでより安定的に輸出の伸びが続くことが期待できる。長期的には更なるユーロ安が部分的に鉱工業を後押しする可能性がある。1月の輸入も実質で前期比3%増となった。小売における需要の楽観的予測は、今後数ヶ月の消費及び消費財輸入の伸びが強化されるとの見通しをもたらしている。1月の貿易黒字は2億ユーロであった。

(了)

# スロバキア主要経済指標

(出典:スロバキア統計局)

